

限界集落の挑戦

【類 型】 茶

【組 織 名】 秋葉まつりの里 未来会議
(令和4年4月設立)

【所 在】 高知県吾川郡仁淀川町別枝

【農業地域類型】 山間農業地域

【構成戸数・人数】 15人

【経営規模 (令和7年度実績)】

茶 30a



秋葉まつりの里 未来会議事務所兼
交流施設「溪流茶屋 嵯峨野の家」

設立の経緯

- 別枝地区は秋葉まつりなど伝統、文化、景観を守りながら地区の活性化を図る組織がいくつかあった。また、令和元年に普及所の提案により「仁淀川町の農業・農地・担い手を検討するPT会」が関係機関で発足し、別枝地区で集落営農の啓発と組織化支援を開始した。
- 令和2年1月、別枝地区の高齢化率は81.1% (67世帯90人) で集落の存続が危ぶまれる状況であったことから、令和4年4月に「集落を消滅させたくない」という強い意志から別枝地区のグループ、有志が集まり「秋葉まつりの里 未来会議」を設立し、組織活動が始まった。

取組の特徴・効果

農村型地域運営組織 (農村RMO)

- 毎月1回地区を残すための検討会を開催して、農業の維持、地域資源の活用、高齢者支援、空き家活用、情報発信などの活動について協議している。
- 農業の維持は、パトロン会 (出資制度) で茶畑を守る活動している。
- 地域資源の活用は、別枝ギフトの販売や交流事業として春・夏・秋の陣の開催している。また、観光ガイドブックを作成している。
- 高齢者支援は、買い物の送迎や見守りによる高齢者が暮らせる環境整備に取り組んでいる。
- 定住促進として、無料宿泊施設「いちょうの家」の運営を行っている。
- 秋葉まつりの里 未来会議兼交流施設「溪流茶屋 嵯峨野の家」の運営と地域情報の発信を行っている。
- 中山間直払制度を活用して地区の茶園管理や景観保全に取り組んでいる。

【具体的な取組内容】



検討会による意思決定



茶摘採作業



日干番茶

○農業の維持

- ・管理茶園の維持
- ・茶園を守る仕組み作り
- ・農地の色分けと耕作放棄地の解消
- ・パトロン会(出資制度)による茶園・景観の保持

○地域資源の活用

- ・別枝ギフト(特産品など詰め合わせ)
- ・交流事業(春・夏・秋の陣)
- ・平家伝説ガイドブック(観光)作成
- ・良心市の運営
- ・新たな製品の開発

秋葉まつりの里 未来会議

○情報発信

- ・講演会、研修会の開催
- ・HP、SNSで情報発信
- ・別枝新聞発行

○定住促進

- ・空き家活用と体験宿泊として無料宿泊施設「いちょうの家」運営

○高齢者支援

- ・かいにこ(買い物支援)
- ・見守りサービス
- ・ことぶき食堂(ランチの提供)

【主な機械・施設】

- ・事務所兼交流施設 1棟
- ・無料宿泊所 1棟
- ・茶工房(茶加工所) 1棟
- ・車(買い物、外出支援) 1台

【課題・今後の取組】

- 組織運営と農地活用に必要な人員確保
- 活動の継続と集落活動センターへの移行
- グランピング事業の立ち上げと運営
- 地域を残すための交流拡大と定住促進
- 耕作放棄地の解消